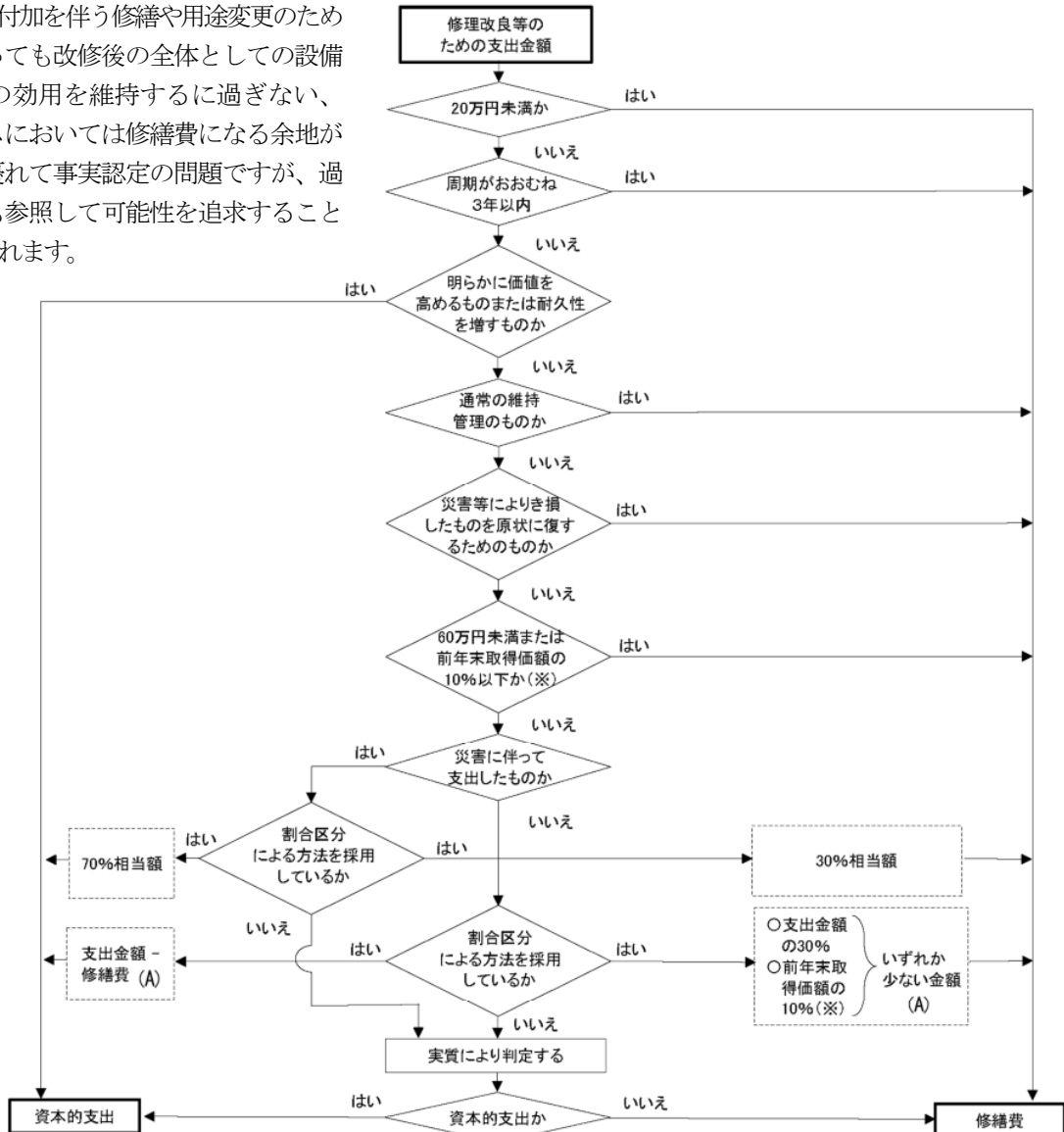


## トピックス ～ 資本的支出と修繕費 ～

一般に修繕費といわれるものでも資産の使用可能期間を延長させたり、資産の価値を高めたりする部分の支出は資本的支出とされ、修繕費とは区別されます。資本的支出を行った場合、その資本的支出を行った減価償却資産と種類及び耐用年数を同じくする減価償却資産を新たに取得したものとして、減価償却費の額を計算することになります。今号では、この判定についてのポイントを解説します。

- ① おおむね3年以内の期間を周期として行われる修理、改良などや通常の維持管理のものであるときは、金額に関係なく修繕費にできます。
- ② 災害により被害を受けた固定資産につき、その原状を回復するために支出した金額は、金額に関係なく修繕費にできます。また、被災前の効用を維持するために行う補強工事、排水または土砂崩れの防止などのために支出した金額についても、法人が修繕費とする経理を行っている場合はその処理が認められます。

(注) 物理的付加を伴う修繕や用途変更のための修繕であっても改修後の全体としての設備が現状程度の効用を維持するに過ぎない、等々のケースにおいては修繕費になる余地があります。優れて事実認定の問題ですが、過去の裁決例も参照して可能性を追求することも必要と思われます。



(※) 「前年末取得価額」とは、原則として前年12月31日に有する固定資産の最初の取得価額に既往のその固定資産につき支出された資本的支出額を加算したものです。

6月を迎え、夏日（25度）はおろか、真夏日（30度）が珍しくなくなることでしょう。救いは、まだ梅雨入り前のため、湿度が低く、夕方になれば、乾燥した涼しげな風が吹き渡っていることです。

庭の花も主役が交代しております。艶やかで豪華な牡丹に代わり紫陽花が登場しております。イメージ的には対極にありますね。紫陽花は土壌によって、あるいは開花の流れに合わせて色の変化を楽しむことができます。とはいえ、花言葉をあたってみると、イメージはあまり良くありません。移り変わりをマイナスに捉える傾向が強いです。代表的なのが「移り気」「冷淡」といったところです。一方、長持ちがするので、「辛抱強い愛」「寛容」とも称されております。何故、色が変化するのか？ということで「神秘」を感じる人もいます。また、小さな花（正確には「ガク」の部分）がいっぱい集まって大きな装飾花になって咲いていることから、「家族団らん」「乙女の愛」といった表現もあります。

今月号は、敢えて発行日を6月5日とさせていただいております。何のことは無い、小生の誕生日だからです。いよいよ70代最後の一年となります。健康で現役生活を続行していることに感謝しつつ、小生なりの健康談義をつぶやいてみたいと思います。

お世辞?も含めて、「お若いですね」とか「そんなお歳にはとても見えません」と言われることが多いです。ありがたいことですし、そう言われること自体が「健康」や「若さ」の保持に大いに役立っております。ですから、皆さんも、周りの人に「お世辞」半分でもいいですから（むしろ、このお世辞こそが大切なんです）、「おはよう」の挨拶に加えて「若いですね」と気軽に声をかけましょう！

まずは、ピンと背筋を伸ばして姿勢を正しくすることです。背中を丸めていると「老い」を感じさせます。とりわけ、正面ではなく、後ろ姿で、「この人、老けているな」と思われてしまいます。小生は高校生の頃、体操部に所属していたので、姿勢を正すことが自然と身についているようです。この年齢になると、身体がどうしても固くなってきておりますが、今でも足を伸ばした状態で両手が床にぴったりとつくことができる程度の柔軟さを維持しております。

次に、食事に関して。朝食を大切にしております。主食はご飯であったり、パンであったり、まちまちですが、具沢山味噌汁、サラダ、野菜、フルーツ、ヨーグルト、お魚系、等々、最低でも10種類以上の品数をいただいております。この点は、妻に感謝・感謝です！もっとも、最近の研究では、元気で長生きするためには肉食が推奨されておりますので、夕食、とりわけ、懇親会（6月は各種団体の総会が続きます）では努めて肉食を選ぶことで、バランスを取るようしております。

ストレスとの上手な付き合いについて。

年齢に関係なく、ストレスは万病の基といえます。ストレスを上手にコントロールできることが健康で長生きできる秘訣といえます。ストレスの無い人は、まずいません。ストレスの源は、「過大な要求や無理難題」、あるいは逆の「過大な期待」その他、「努力が報われない」「建前と本音のギャップ」「理想と現実」等々、自身では簡単に解決や処方箋が見つからない局面において発生しがちです。

小生の経験則では、ある程度（この匙加減が難しいのですが）努力したら、いったんはその時点で諦める、というものです。また、人間関係では、「来る人を拒まず、去る人は追わず」といった流儀でしょうか。幸いにして、手ひどく裏切られるといった経験がありませんので、人間不信に陥ったこともなく、この手のストレスを味わうことはありませんでした。

もう一つ大事なポイントとして小生が重視しているのが、笑顔を絶やさず、「他人の悪口を言わない」ということです。人間の感情として、好き・嫌いはどうしてもありますが、嫌いな人でも悪口は言わないようにしております。悪口を言う時の心理状態は決して良いものではなく（例外的には、それが快感になる人がいるかもしれませんが）、悪玉菌のストレスが増殖していると思われれます。逆に良い点を誉めてあげれば好意的な反応が返ってきますので、結果的に、善玉菌が自身の体内を駆け巡るのではないのでしょうか。まずは、自分を誉めてあげましょう！（これは小生の得意分野です）ストレス解消の第一歩になること、間違いありません。



(令和8年6月5日 誕生日 所長 橋本)